

10. 政策科学研究部

部長：森 臨太郎

【ミッション・目標】

当研究部のミッションは、成育医療および保健に関連する情報を収集し分析することで、健全な次世代育成に資する政策提言・情報発信・研究活動を行うことである。根拠に基づく政策の枠組みが変化する中、それに合わせるように、研究の方向性として、以下の四つの柱を立てて研究している。

第一の柱：成育医療・保健の政策に関する理論的研究

成育医療や保健分野の特徴を踏まえつつ、医療や保健政策の在り方や、適切な政策選択、政策の意思決定など、理論的研究を行っている。

第二の柱：系統的レビュー（コクランレビュー）をはじめとする研究統合的研究の推進

成育医療やより広く健全な次世代育成のための科学的根拠に関して、最新の検索技術を行う網羅的に検索し、根拠の質を系統的に分析し、統合的な分析手法（メタ解析）を行っている。根拠に基づく政策のための根幹部分を示し、費用対効果分析など決断分析あるいは患者一般参画、客観的総意形成法の実施やその支援を通じて、政策や診療に直結する研究成果の創出を目指している。また、それらの結果をもとに、医療者や研究者向けのみならず、一般の方々に対する情報発信を行っている。

第三の柱：成育医療・保健に係るデータベースの構築と利活用

新生児医療疾病登録や妊娠合併症疾病登録のデータベース、さらには政府統計なども含め、成育医療・保健に関連したデータベースを構築し、データベース間の連結を行っている。必要に応じて政策に資する一次データの収集を疫学研究フィールドで行い、高度な統計分析を行うことで、現状を明らかにし、新たな治療法や政策への端緒、あるいは政策の評価となる研究を行っている。

第四の柱：成育医療・保健の介入研究を含めた政策評価

政策介入の代表的研究デザインであるランダム化比較試験などを用いて、成育医療や保健に関する介入の評価を行っている。また、当研究部は、国立成育医療研究センター病院や他の大学をはじめ、国内外から多数の医師・研究者が当研究部の共同研究員として研究を行っている。

【研究プロジェクト】

コクラン共同計画日本ブランチ・コクラン妊娠出産グループ日本支部
 全国周産期医療施設データベースと国際連携
 妊産婦とそのパートナーのメンタルヘルスに関する研究
 世界保健機関・周産期ガイドライン作成（G.R.E.A.T Project）
 世界保健機関・世界周産期調査

費用対効果分析と根拠に基づく医療政策に関する理論的研究
 子どもの健康と福祉に関する総合評価に関する研究
 モンゴル国母子健康手帳の評価と出生コホート研究
 バングラデッシュ国地域および施設連携介入による母児の健康改善に関する研究
 慢性疾患を有する子どもの健康と福祉に関する総合評価に関する研究

【研究体制】

部 長：森臨太郎

室 長：大田えりか（～平成28年3月）

室 長：蓋若琰（平成27年4月～）

室 長：竹原健二（平成28年7月～）

研 究 員：竹原健二（～平成28年6月）、佐々木八十子、Dagvadorj Amarjargal、Ganchimeg Togoobaatar（～平成27年6月）、Sadequa Shahrook（～平成27年4月）、Celine Miyazaki、Olukunmi Balogun（平成27年4月～）、Chibueze Chioma Ezinne（平成27年2月～平成28年12月）、大西香世（～平成27年9月）、花田信継（～平成28年3月）、Da Silva Lopes Katharina（平成27年4月～）、西田俊彦（平成28年10月～）、川崎麻紀（平成28年4月～）、澤田樹美（平成27年10月～平成28年3月）、高橋法子（平成28年4月～平成28年9月）、竹形みずき（平成27年12月～平成28年3月）

臨床研究フェロー：川崎麻紀（～平成28年3月）、高橋法子（～平成28年3月）

客員研究員：大田えりか（平成28年4月～、聖路加国際大学大学院国際看護学教授）

共同研究員：加藤忠明、諏訪敏幸（大阪大学大学院）、松田祐典（埼玉医科大学総合医療センター）、澤田樹美（名古屋女子大学）、布施養善（帝京大学医学部）、Rachel Marie Amiya、橋本直也（株式会社 Kids Public）、岡田朋美、柳川侑子（東京大学大学院）、田中久子（二葉栄養専門学校）、鈴木博道（NPO 日本コ克蘭センター）、森桂（厚生労働省医政局）、Sadequa Shahrook、野崎貴成（東京大学大学院）、Ganchimeg Togoobaatar（筑波大学大学院）、堀裕行、竹元葉（順天堂大学医学部大学院）、山本周平（信州大学医学部附属病院）、篠田雄一（筑波大学附属病院・東京さくら病院）、中野紘呂（スターメディカル株式会社）、豊島義博（鶴見大学）、堀田信之（横浜市立大学大学院）、Wariki Windy、芹澤優子（株式会社読売プラスメディア）、小林しのぶ、Olga Milyukov（Hochschule Hannover University）、原田正平（聖徳大学）、Caroline Kaori Tomo、須藤茉衣子（津田塾大学大学院）、三ツ橋偉子（東京女子医科大学）、江原伯陽（エバラこどもクリニック）、安藤友久（株式会社 Kids Public）、高橋法子、野間久史、Syed Emdadul Haque(UChicago Research Bangladesh)

研究補助者：佐野留理子、明田美和子、渡邊晴子、富田恭子（平成27年6月～平成28年7

月)、

事務補助者：竹中京姫、保田桂（平成27年9月～）、清水友里加（平成28年11月～）

【国際共同研究】

- コクラン共同計画
- 世界保健機関
- バングラデッシュ国際下痢性疾病研究所
- 国際協力機構
- ロンドン大学教育学研究所
- カナダ新生児ネットワーク
- モンゴル国立母子保健センター
- モンゴル国保健省
- ユニセフ
- 上海小児病院

【国内共同研究】

- 日本公衆衛生協会
- 東京都世田谷区
- 愛知県西尾市
- 東京大学
- 京都大学
- 長崎大学
- 東京女子医科大学
- 北海道大学
- 札幌医科大学
- 旭川医科大学

【研究の概要】

1) コクラン共同計画日本ブランチ・コクラン妊娠出産グループ日本支部

厚生労働科学研究費補助金および臨床研究中核病院から支援を得て、日本で唯一のコクラン共同計画正式組織として、コクランレビューの作成法に関するワークショップを開催して国内外の研究者がコクランレビューを作成するための支援を行いつつ、研究部から成育医療に関する最新の科学的根拠をコクランレビューの形でまとめ、世界に発信している。

2) 全国周産期医療施設データベースと国際連携

日本未熟児新生児学会と連携して、全国新生児医療施設の極低出生体重児の疾病登録に関

して、診療の質向上に関連したデータ分析と、診療の質向上パッケージによるクラスターランダム化比較試験に貢献している。また、本データベースの日本代表として、10の先進国の同様の疾病登録と連携して国際共同研究を行っている。

3) 妊産婦とそのパートナーのメンタルヘルスに関する研究

世田谷区と西尾市において、妊産婦とそのパートナーの妊娠期から産褥期におけるメンタルヘルスの縦断調査を行っている。また、愛知県碧南市の産科施設の協力を得て、妊産婦のパートナーを対象とする無作為化比較試験を実施している。

4) 世界保健機関・周産期ガイドライン作成 (G.R.E.A.T Project)

世界保健機関による妊婦検診に関するガイドラインなど、周産期医療分野のガイドライン作成に貢献している。

5) 世界保健機関・世界周産期調査

世界29か国で同時に行う、周産期医療の横断調査の日本担当として、調査に協力し、全体の分析も行っている。

6) 費用対効果分析と根拠に基づく医療政策に関する理論的研究

医療的介入に関する費用対効果分析を行うと同時に、診療ガイドラインや医療政策における費用対効果分析の役割、さらに根拠に基づく医療の新しい枠組みに関して理論的研究を行っている。質調整生存年 (QALY) を算出するための手法の開発や、国内外の疫学フィールドにおける調査における医療技術評価を行っている。また、ロンドン大学教育学研究所と理論的研究の系統的レビューに関する共同研究を行っている。

7) モンゴル国母子健康手帳の評価と出生コホート研究

モンゴル国における母子健康手帳の効果についてクラスターランダム化比較試験にて評価するとともに、出生コホート研究を立ち上げ、生後5年時まで追跡を行い、モンゴルの子どもの健康に関連する要因を明確化し、政策に資する研究を行っている。

8) バングラデッシュ国地域および施設連携介入による母児の健康改善に関する研究

JICA およびバングラデッシュ国際下痢性疾患研究所 (ICDDR,B) と連携して、バングラデッシュ国における地域介入と施設マネジメント能力強化の連携による母児の健康改善に関する研究を行っている。

9) 世界における疾病負担の推測に関する研究

世界保健機関および世界銀行が開始し、ワシントン大学、ランセット誌、ゲイツ財団など

が主宰する世界の疾病負担プロジェクトにおいて、特に新生児領域の疾病負担に貢献し、新生児黄疸の疾病負担推測に関するプロジェクトを主導した。

10) 慢性疾患を有する子どもの健康と福祉に関する総合評価に関する研究

慢性疾患や障がいをもつ子どもたちの総合的な健康や福祉に関する指標や評価法の開発を行うとともに、それらの評価指標を用いて、慢性疾患を有する子どもたちの well-being 向上のための実態調査等を進め、養育・療育における子どもたちの権利擁護の観点を踏まえた政策の提案を行っている。

【平成 27 年研究業績】

【論文発表】

[原著論文 (欧文)]

1. *Mori R, Yonemoto N, Noma H, Ochirbat T, Barber E, Soyolgerel G, Nakamura Y, Lkhagvasuren O. The Maternal and Child Health (MCH) Handbook in Mongolia. A Cluster-Randomized, Controlled Trial. *Plos One* 2015;10.
2. *Kitajima H, Kanazawa T, Mori R, Hirano S, Ogihara T, Fujimura M. Long-term alpha-tocopherol supplements may improve mental development in extremely low birthweight infants. *Acta Paediatrica* 2015;104:E82-E9.
3. *Akahira-Azuma M, Yonemoto N, Mori R, Hosokawa S, Matsushita T, Sukhbat K, Nansal G, Bavuusuren B, Shonkhuuz E. An hour-specific transcutaneous bilirubin nomogram for Mongolian neonates. *European journal of pediatrics* 2015;174:1299-304.
4. *Brown HC, Smith HJ, Mori R, Noma H. Giving women their own case notes to carry during pregnancy. *Cochrane Database of Systematic Reviews* 2015;CD002856.
5. Chaves Sda C, Cecatti JG, Carroli G, Lumbiganon P, Hogue CJ, Mori R, Zhang J, Jayaratne K, Togoobaatar G, Pileggi-Castro C, Bohren M, Vogel JP, Tuncalp O, Oladapo OT, Gulmezoglu AM, Temmerman M, *Souza JP. Obstetric transition in the World Health Organization Multicountry Survey on Maternal and Newborn Health: exploring pathways for maternal mortality reduction. *Revista Panamericana de Salud Pública* 2015;37:203-10.
6. GBD 2013 Risk Factors Collaborators(Mori R). Global, regional, and national comparative risk assessment of 79 behavioural, environmental and occupational, and metabolic risks or clusters of risks in 188 countries, 1990-2013: a systematic analysis for the Global Burden of Disease Study 2013. *Lancet* 2015;386:2287-323.
7. GBD 2013 DALYs and HALE Collaborators(Mori R). Global, regional, and national disability-adjusted life years (DALYs) for 306 diseases and injuries and healthy life expectancy (HALE) for 188 countries, 1990-2013: quantifying the epidemiological transition. *Lancet* 2015;386:2145-91.
8. GBD 2013 Mortality and Causes of Death Collaborators (Mori R). Global, regional, and national age-sex specific all-cause and cause-specific mortality for 240 causes of death, 1990-2013: a systematic analysis for the Global Burden of Disease Study 2013. *Lancet* 2015;385:117-71.
9. Gomi H, Goto Y, Laopaiboon M, Usui R, *Mori R. Routine blood cultures in the management of pyelonephritis in pregnancy for improving outcomes. *Cochrane Database of Systematic Reviews* 2015;CD009216.pub2.
10. Kataoka Y, Yaju Y, Hiruta A, Horiuchi S, *Mori R. Homeopathy for reducing blood loss in the third stage of labour. *Cochrane Database of Systematic Reviews* 2015;CD011635.

11. Global Burden of Disease Study 2013 Collaborator(Mori R). Global, regional, and national incidence, prevalence, and years lived with disability for 301 acute and chronic diseases and injuries in 188 countries, 1990-2013: a systematic analysis for the Global Burden of Disease Study 2013. *Lancet* 2015;386:743-800.
12. Ye J, Torloni MR, Ota E, Jayaratne K, Pileggi-Castro C, Ortiz-Panozo E, Lumbiganon P, Morisaki N, Laopaiboon M, Mori R, Tuncalp O, Fang F, Yu H, Souza JP, Vogel JP, *Zhang J. Searching for the definition of macrosomia through an outcome-based approach in low- and middle-income countries: a secondary analysis of the WHO Global Survey in Africa, Asia and Latin America. *BMC Pregnancy and Childbirth* 2015;15:324.
13. *Vogel JP, Betran AP, Vindevooghel N, Souza JP, Torloni MR, Zhang J, Tuncalp O, Mori R, Morisaki N, Ortiz-Panozo E, Hernandez B, Perez-Cuevas R, Qureshi Z, Gulmezoglu AM, Temmerman M, Maternal WM-CS. Use of the Robson classification to assess caesarean section trends in 21 countries: a secondary analysis of two WHO multicountry surveys. *The Lancet Global Health* 2015;3:E260-E70.
14. *Yoshikawa N, Nakanishi K, Sako M, Oba MS, Mori R, Ota E, Ishikura K, Hataya H, Honda M, Ito S, Shima Y, Kaito H, Nozu K, Nakamura H, Igarashi T, Ohashi Y, Iijima K, Children JSGoKDi. A multicenter randomized trial indicates initial prednisolone treatment for childhood nephrotic syndrome for two months is not inferior to six-month treatment. *Kidney International* 2015;87:225-32.
15. Isayama T, Ye XY, Tokumasu H, Chiba H, Mitsuhashi H, Shahrook S, Kusuda S, Fujimura M, Toyoshima K, *Mori R, Neonatal Research Network of J. The effect of professional-led guideline workshops on clinical practice for the management of patent ductus arteriosus in preterm neonates in Japan: a controlled before-and-after study. *Implementation Science* 2015;10:67.
16. Isayama T, *Mirea L, Mori R, Kusuda S, Fujimura M, Lee SK, Shah PS, Neonatal Research Network of J, the Canadian Neonatal N. Patent ductus arteriosus management and outcomes in Japan and Canada: comparison of proactive and selective approaches. *American Journal of perinatology* 2015;32:1087-94.
17. Ogawa R, Mori R, Sako M, Kageyama M, Tamura M, *Namba F. Drug treatment for bronchopulmonary dysplasia in Japan: Questionnaire survey. *Pediatrics International* 2015;57:189-92.
18. Michihata N, Yamamoto Kiwako H, Mukaigawara M, Miyairi I, *Mori R. Group B streptococcus immunisation during pregnancy for improving outcomes. *Cochrane Database of Systematic Reviews* 2015; CD011496
19. Takahashi R, Ota E, Hoshi K, Naito T, Toyoshima Y, Yuasa H, *Mori R. Fluoride supplementation in pregnant women for preventing dental caries in the primary teeth of their children. *Cochrane Database of Systematic Reviews* 2015;CD011850
20. *Ota E, Hori H, Mori R, Tobe RG, Farrar D. Antenatal dietary education and supplementation to increase energy and protein intake. *Cochrane Database of Systematic Reviews* 2015;CD000032.
21. Ota E, *Mori R, Middleton P, Tobe RG, Mahomed K, Miyazaki C, Bhutta Zulfiqar A. Zinc

- supplementation for improving pregnancy and infant outcome. *Cochrane Database of Systematic Reviews* 2015;CD000230.
22. *Amengual O, Fujita D, Ota E, Carmona L, Oku K, Sugiura OM, Murashima A, Atsumi T. Primary prophylaxis to prevent obstetric complications in asymptomatic women with antiphospholipid antibodies: a systematic review. *Lupus* 2015;24:1135-42.
 23. *Momosaki R, Yamada N, Ota E, Abo M. Repetitive peripheral magnetic stimulation for activities of daily living and functional ability in people after stroke. *Cochrane Database of Systematic Reviews* 2015;CD011968.
 24. *Rahman MM, Abe SK, Kanda M, Narita S, Rahman MS, Bilano V, Ota E, Gilmour S, Shibuya K. Maternal body mass index and risk of birth and maternal health outcomes in low- and middle-income countries: a systematic review and meta-analysis. *Obesity Reviews* 2015;16:758-70.
 25. Chibueze EC, Parsons AJ, *Ota E, Swa T, Oladapo OT, Mori R. Prophylactic antibiotics for manual removal of retained placenta during vaginal birth: a systematic review of observational studies and meta-analysis. *BMC Pregnancy Childbirth* 2015;15:313.
 26. *Dagvadorj A, Takehara K, Bavuusuren B, Morisaki N, Gochoo S, Mori R. The quick and easy Mongolian Rapid Baby Scale shows good concurrent validity and sensitivity. *Acta Paediatrica* 2015;104:E94-E9.
 27. Hanada N, Matsuzaki M, Ota E, *Mori R. Psychosocial and educational interventions in latent phase or early labour for improving birth outcomes. *Cochrane Database Systematic Reviews* 2015;CD011516.
 28. *Balogun OO, Dagvadorj A, Anigo KM, Ota E, Sasaki S. Factors influencing breastfeeding exclusivity during the first 6 months of life in developing countries: a quantitative and qualitative systematic review. *Maternal & Child Nutrition* 2015;11:433-51.
 29. *Balogun OO, Kobayashi S, Anigo KM, Ota E, Asakura K, Sasaki S. Factors Influencing Exclusive Breastfeeding in Early Infancy: A Prospective Study in North Central Nigeria. *Maternal and child health journal* 2016(first online 2015);20:363-75.
 30. *Kanda M, Ota E, Fukuda H, Miyauchi S, Gilmour S, Kono Y, Nakagama E, Murashima S, Shibuya K. Effectiveness of community-based health services by nurse practitioners: protocol for a systematic review and meta-analysis. *Bmj Open* 2015;5:e006670.
 31. *Konishi M, Tachibana Y, Tang J, Takehara K, Kubo T, Hashimoto K, Kitazawa H, Saito H, Ohya Y. A Comparison of Self-Rated and Female Partner-Rated Scales in the Assessment of Paternal Prenatal Depression. *Community Mental Health Journal* 2015;10.1007/s10597-015-9931-z.
 32. Kumagai Y, Gilmour S, Ota E, Momose Y, Onishi T, Bilano VLF, Kasuga F, Sekizaki T, *Shibuya K. Estimating the burden of foodborne diseases in Japan. *Bulletin of the World Health Organization* 2015;93:540-9.
 33. *Mackeen AD, Packard Roger E, Ota E, Speer L. Antibiotic regimens for postpartum endometritis.

- Cochrane Database Systematic Reviews 2015;CD001067.
34. Miyazaki C, Koyama M, *Ota E, Swa T, Amiya RM, Mlunde LB, Tachibana Y, Yamamoto-Hanada K, Mori R. Allergies in Children with Autism Spectrum Disorder: a Systematic Review and Meta-analysis. *Review Journal of Autism and Developmental Disorders* 2015;2:374-401.
 35. *Rumbold A, Ota E, Hori H, Miyazaki C, Crowther Caroline A. Vitamin E supplementation in pregnancy. *Cochrane Database System Review* 2015;CD004069.
 36. *Rumbold A, Ota E, Nagata C, Shahrook S, Crowther Caroline A. Vitamin C supplementation in pregnancy. *Cochrane Database System Review* 2015;CD004072.
 37. *Sasaki H, Archer J, Yonemoto N, Mori R, Nishida T, Kusuda S, Nakayama T. Assessing doctors' competencies using multisource feedback: validating a Japanese version of the Sheffield Peer Review Assessment Tool (SPRAT). *Bmj Open* 2015;5:e007135.
 38. *Sawada K, Murayama N, Takemi Y, Ishida H. Cohort study examining the association between vegetable consumption and weight gain in a single year among Japanese employees at a manufacturing company. *Asia Pacific Journal of Clinical Nutrition* 2015;24:633-8.
 39. *Souza JP, Betran AP, Dumont A, de Mucio B, Gibbs Pickens CM, Deneux-Tharaux C, Ortiz-Panoso E, Sullivan E, Ota E, Togoobaatar G, Carroli G, Knight H, Zhang J, Cecatti JG, Vogel JP, Jayaratne K, Leal MC, Gissler M, Morisaki N, Lack N, Oladapo OT, Tuncalp O, Lumbiganon P, Mori R, Quintana S, Costa Passos AD, Marcolin AC, Zongo A, Blondel B, Hernandez B, Hogue CJ, Prunet C, Landman C, Ochir C, Cuesta C, Pileggi-Castro C, Walker D, Alves D, Abalos E, Moises E, Vieira EM, Duarte G, Perdona G, Gurol-Urganci I, Takahiko K, Moscovici L, Campodonico L, Oliveira-Ciabati L, Laopaiboon M, Danansuriya M, Nakamura-Pereira M, Costa ML, Torloni MR, Kramer MR, Borges P, Olkhanud PB, Perez-Cuevas R, Agampodi SB, Mittal S, Serruya S, Bataglia V, Li Z, Temmerman M, Gulmezoglu AM. A global reference for caesarean section rates (C-Model): a multicountry cross-sectional study. *BJOG:An International Journal of Obstetrics & Gynaecology* 2016(first published 2015);123:427-36.
 40. Suto M, *Takehara K, Misago C, Matsui M. Prevalence of Perineal Lacerations in Women Giving Birth at Midwife-Led Birth Centers in Japan: A Retrospective Descriptive Study. *Journal of Midwifery & Women's Health* 2015;60:419-27.
 41. *Tachibana Y, Koizumi T, Takehara K, Kakee N, Tsujii H, Mori R, Inoue E, Ota E, Yoshida K, Kasai K, Okuyama M, Kubo T. Antenatal Risk Factors of Postpartum Depression at 20 Weeks Gestation in a Japanese Sample: Psychosocial Perspectives from a Cohort Study in Tokyo. *Plos One* 2015;10:e0142410.
 42. Takahashi N, Nakao R, Ueda K, Ono M, Kondo M, Honda Y, *Hashizume M. Community trial on heat related-illness prevention behaviors and knowledge for the elderly. *International journal of environmental research and public health* 2015;12:3188-214.
 43. *Takehara K, Dagvadorj A, Hikita N, Sumya N, Ganhuyag S, Bavuusuren B, Ota E, Haruna M,

- Yoshida M, Kita S, Noma H, Mori R. Maternal and Child Health in Mongolia at 3 Years After Childbirth: A Population-Based Cross-Sectional Descriptive Study. *Maternal and child health journal* 2015; DOI: 10.1007/s10995-015-1893-9
44. *Takehara K, Kato S, Sasaki A, Jwa SC, Kakee N, Sago H, Noguchi Y, Aoki T, Inoue E, Nitta C, Ishii Y. Efficacy of advice from healthcare professionals to pregnant women on avoiding constrictive clothing around the trunk: a study protocol for a randomised controlled trial. *BMJ Open* 2015;5.
45. *Thinkhamrop J, Hofmeyr GJ, Adetoro O, Lumbiganon P, Ota E. Antibiotic prophylaxis during the second and third trimester to reduce adverse pregnancy outcomes and morbidity. *Cochrane Database System Review* 2015;CD002250.pub2.

[総説]

1. 森臨太郎, 森享子. ほんとうに確かなことから考える 妊娠・出産・子育てのはなし [1] 妊娠・出産時の医療のかかわり方について考えてみよう. 助産雑誌, 医学書院, 2015; 69; 764-71
2. 森臨太郎, 森享子. ほんとうに確かなことから考える 妊娠・出産・子育てのはなし [2] 妊娠中の食生活について. 助産雑誌, 医学書院, 2015; 69; 856-863
3. 森臨太郎, 森享子. ほんとうに確かなことから考える 妊娠・出産・子育てのはなし [3] 妊娠中の運動, 嗜好品について. 助産雑誌, 医学書院, 2015; 69; 946-50
4. 森臨太郎, 森享子. ほんとうに確かなことから考える 妊娠・出産・子育てのはなし [4] 周産期のメンタルヘルスについて. 助産雑誌, 医学書院, 2015; 69; 1028-35
5. 森臨太郎. WHOでは小児保健政策はどのようにきめられているか～連載～世界の小児医療, 小児内科, 東京医学社, 2015; 47 (12); 2162.
6. 佐々木八十子, 大田えりか, 森臨太郎. コクランライブラリーとコクラン共同計画. 月刊薬事, じほう, 2015; 57; 89-93
7. 大西香世, 森臨太郎. 児童福祉および障害児福祉にかかわる助成と支援の概要. 小児内科, 東京医学社, 2015; 47; 1136 -1139
8. 岡潤子, 井富由佳, 田山美穂, 竹原健二. 優れた SBA(Skilled Birth Attendant 熟練した分娩介助者) 日本の助産師の経験知を調査する 助産師がいう"お産が進む"とは何か? 開業助産師48名を対象にした聞き取り調査から(第4回) 今回の着目点 分泌物. ペリネイタルケア, メディカ出版, 2015; 1; 105-107.
9. 井富由佳, 田山美穂, 岡潤子, 竹原健二. 優れた SBA(Skilled Birth Attendant, 熟練した分娩介助者) 日本の助産師の経験知を調査する 助産師がいう"お産が進む"とは何か? 開業助産師48名を対象にした聞き取り調査から(第5回) 今回の着目点 努責感. ペリネイタルケア, メディカ出版, 2015; 2; 210-212.
10. 田山美穂, 岡潤子, 井富由佳, 竹原健二. 優れた SBA(Skilled Birth Attendant, 熟練した分娩

- 介助者) 日本の助産師の経験知を調査する 助産師がいう"お産が進む"とは何か? 開業助産師48名を対象にした聞き取り調査から(第6回) 今回の着目点 呼吸. ペリネイタルケア, メディカ出版, 2015; 3; 322-323.
11. 岡潤子, 井富由佳, 田山美穂, 竹原健二. 優れた SBA(Skilled Birth Attendant, 熟練した分娩介助者) 日本の助産師の経験知を調査する 助産師がいう"お産が進む"とは何か? 開業助産師48名を対象にした聞き取り調査から(第7回) 今回の着目点 痛みに対する受容. ペリネイタルケア, メディカ出版, 2015; 4; 425-427.
 12. 井富由佳, 田山美穂, 岡潤子, 竹原健二. 優れた SBA(Skilled Birth Attendant, 熟練した分娩介助者) 日本の助産師の経験知を調査する 助産師がいう"お産が進む"とは何か?(第8回) 今回の着目点 便意・排便. ペリネイタルケア, メディカ出版, 2015; 5; 519-521.
 13. 田山美穂, 岡潤子, 井富由佳, 竹原健二. 優れた SBA(Skilled Birth Attendant, 熟練した分娩介助者) 日本の助産師の経験知を調査する 助産師がいう"お産が進む"とは何か? 開業助産師48名を対象にした聞き取り調査から(第9回) 今回の着目点 発汗. ペリネイタルケア, メディカ出版, 2015; 6; 631-633.
 14. 岡潤子, 井富由佳, 田山美穂, 竹原健二. 優れた SBA(Skilled Birth Attendant, 熟練した分娩介助者) 日本の助産師の経験知を調査する 助産師がいう"お産が進む"とは何か? 開業助産師48名を対象にした聞き取り調査から(第10回) 今回の着目点 間歇時の眠り. ペリネイタルケア, メディカ出版, 2015; 7; 712-714.
 15. 井富由佳, 田山美穂, 岡潤子, 竹原健二. 優れた SBA(Skilled Birth Attendant, 熟練した分娩介助者)日本の助産師の経験知を調査する 助産師がいう"お産が進む"とは何か? 開業助産師48名を対象にした聞き取り調査から(第11回) 今回の着目点 吐き気・嘔吐. ペリネイタルケア, メディカ出版, 2015; 8; 819-821.
 16. 岡潤子, 井富由佳, 田山美穂, 竹原健二. 優れた SBA(Skilled Birth Attendant, 熟練した分娩介助者) 日本の助産師の経験知を調査する 助産師がいう"お産が進む"とは何か? 開業助産師48名を対象にした聞き取り調査から(第12回) 今回の着目点 会陰・肛門部に当てた手への抵抗感. ペリネイタルケア, メディカ出版, 2015; 9; 916-918.
 17. 井富由佳, 田山美穂, 岡潤子, 竹原健二. 優れた SBA(Skilled Birth Attendant, 熟練した分娩介助者)日本の助産師の経験知を調査する 助産師がいう"お産が進む"とは何か? 開業助産師48名を対象にした聞き取り調査から(第13回) 今回の着目点 体温の変化. ペリネイタルケア, メディカ出版, 2015; 10; 994-996.
 18. 田山美穂, 岡潤子, 井富由佳, 竹原健二. 優れた SBA(Skilled Birth Attendant, 熟練した分娩介助者) 日本の助産師の経験知を調査する 助産師がいう"お産が進む"とは何か? 開業助産師48名を対象にした聞き取り調査から(第14回) 今回の着目点 筋肉の張り. ペリネイタルケア, メディカ出版, 2015; 11; 1099-1101.
 19. 森臨太郎, 森享子. いのちをつなぐひとたち[46], 助産雑誌, 医学書院, 2015; 69; 795-798

20. 森臨太郎. コクラン共同計画と日本の周術期医療の展望. 「麻酔」第64巻増刊号公益社団法人日本麻酔科学会第62回学術集会講演特集号, 2015.

[著書]

[ガイドライン、報告書、その他]

1. 布施養善, 伊藤善也, 河井昌彦, 山口真由, 浦川由美子, 塚田信. ヨウ素摂取と甲状腺機能、成長発達との関連に関する研究、1. 学童全国調査による日本人のヨウ素摂取状況に関する研究 第1報 2. 新生児のヨウ素摂取と甲状腺機能異常との関連に関する研究 (中間報告). 成長科学協会平成26年度研究年報, 2015 ; 38:35-39
2. 布施養善, 山口真由, 浦川由美子, 塚田信, 桃山次郎. 食物からのヨウ素摂取量を正確に評価するための研究—調理によるヨウ素含有量の変化と加工食品のヨウ素含有量 (中間報告書). 成長科学協会平成26年度研究年報, 2015 ; 38:137-139

[学会発表]

[一般演題]

3. Dagvadorj A. Prevalence and correlates of children's lower respiratory tract infection and associated hospital admissions: a population-based, cross-sectional study in Mongolia. World Health Summit Regional Meeting in Asia Kyoto 2015, Kyoto Japan, 2015.04.13.
4. Sawada K, Ota E, Shahrook S, Mori R. Financial incentive policies at workplace cafeterias for preventing obesity: a systematic review and meta-analysis (Protocol). 12th Asian Congress of Nutrition (ACN 2015), Yokohama Japan, 2015.5.16.
5. Tobe RG, XM, Lingzhong Xu. Cost-effectiveness analysis of female human papillomavirus vaccination in mainland China. ISPOR 20th Annual International Meeting, Philadelphia PA USA, 2015.5.19.
6. Takehara K, Yajima Y, Misago C, Suto M, Noguchi M, Matsui M. Is physical sign from a woman's body useful to assess labor progress?. The ICM Pacific Regional Conference 2015, Kanagawa Japan, 2015.7.21
7. Miyazaki C, Ota E, Mori R, Sasaki H, Jamie D, Kerry. Discernment of Academic Conflicts of Interest for Cochrane systematic reviews. Cochrane Colloquium 2015, Vienna Austria, 2015.10.5
8. Dagvadorj A. Potential correlates of risk of child development in Mongolia. Kyoto Global Conference for Rising Public Researchers on Aging Society and Community Health, Kyoto Japan, 2015.12.2
9. Dagvadorj A. The effectiveness of follow-up care on elevated HbA1c in Japanese adults: A retrospective cohort study. The 25th Annual Scientific Meeting of the Japan Epidemiological

Association, Aichi Japan, 2015.1.21

10. 関華衣, 清水夕奈, 澤田樹美, 田中久子, 原田正平. 社会認知理論に基づいた栄養教育プログラムの開発に向けた文献レビュー. 第23回日本健康教育学会, 群馬, 2015.7.4.
11. Yamamoto S. Effects of resistance training in patients with coronary artery disease: a meta-analysis. 21st Japanese Association of Cardiac Rehabilitation, Fukuoka Japan, 2015.7.19
12. 蓋若琰, 莫秀婷, 李玲, 王保珍, 徐凌忠. A community-based health counseling for primary caregivers to address the double burden of malnutrition among left-behind children in rural China. 第4回日本DOHaD研究会学術集会, 東京, 2015.8.1
13. 蓋若琰, Martin GR, Li F, 森臨太郎. 中国におけるパルスオキシメーターによる新生児先天性心疾患スクリーニングの費用対効果分析. 第10回日本医療経済学会学術集会, 京都, 2015.9.6
14. 莫秀婷, 蓋若琰, 刘晓燕, 森臨太郎. 中国における小児用肺炎球菌ワクチンの費用対効果分析. 第30回日本国際保健医療学会学術大会, 金沢, 2015.11.23
15. 加藤 佐知子, 竹原健二, 新田 知恵子, 大田えりか. 切迫流早産で入院した妊婦に対する「着衣による体幹への締め付けを回避するケア」の効果の検証. 第29回日本助産学会学術集会. 東京, 2015.3.29.
16. 星野 雄子, 井上 茜, 加藤 章子, 竹原健二. 磁気治療器による骨盤周囲の支持組織への刺激が分娩に与える影響. 第29回日本助産学会学術集会. 東京, 2015.3.29.
17. 田山美穂, 井富 由佳, 岡 潤子, 葛西 圭子, 竹原健二. 産後1ヵ月健診時の褥婦のマイナートラブルの実態とその後の経過に関する縦断的な分析. 第29回日本助産学会学術集会. 東京, 2015.3.29.
18. 野口 真貴子, 松井 三明, 小山内 泰代, 堀越 洋一, 竹原健二, 三砂 ちづる, 江上 由里子. カンボジアにおける分娩期ケアに対する女性と助産師の認識. 第85回日本衛生学会学術総会. 和歌山, 2015.3.27.
19. 立花 良之, 小泉 智恵, 竹原健二, 辻井 弘美, 掛江 直子, 森臨太郎, 久保 隆彦. 妊娠期における児童虐待の危険因子についての研究 東京都世田谷区におけるコホート調査の結果から. 第111回日本精神神経学会学術総会. 大阪, 2015.6.4.
20. 竹原健二, 磯貝恵美, 須藤茉衣子. 生後2か月の乳児の父親におけるメンタルヘルスと虐待傾向の関連. 第74回日本公衆衛生学会総会, 長崎, 2015.11.4.
21. 須藤茉衣子, 磯貝恵美, 三砂ちづる, 竹原健二. わが国における父親の産後うつの実態と関連要因. 第74回日本公衆衛生学会総会. 長崎, 2015.11.4.

[講演・シンポジウム]

1. 森臨太郎. 系統的レビュー担当者の養成について. Minds フォーラム 2015, 東京都, 2015.3.8.
2. 森臨太郎. 持続可能な医療を創る～グローバルな視点からの提言～. 日本青年会議所医療

- 部会 3 月例会, 福岡 2015.3.21
3. 森臨太郎. コクラン翻訳プロジェクトに関する検討会. 公益財団法人日本医療機能評価機構, 東京都, 2015.4.1.
 4. 森臨太郎. コクランレビューレジストリについて. 第一回奈良コクランレビューワークショップ, 奈良市, 2015.5.23.
 5. 森臨太郎. コクラン共同計画と日本の周産期医療の展望. 第 6 2 回日本麻酔科学会学術集会, 兵庫県, 2015.5.28.
 6. Mori R. Cochrane Systematic Review Workshop Jeju Island. Korea, 2015.6.11.
 7. 森臨太郎. 財政破綻が招く社会保障制度崩壊の危機と回避に向けて進む医療改革. 医療白書 2015-2016 年版座談会, 東京, 2015.7.7.
 8. 森臨太郎. コクラン翻訳プロジェクトに関する検討会. 公益財団法人日本医療機能評価機構, 東京, 2015.8.12.
 9. 森臨太郎. コクラン共同計画と系統的レビュー. 筑波大学医学医療系保健医療学域主催 Faculty Development, 茨城県, 2015.9.8.
 10. Mori R. 2015 Cochrane Review Workshop in Busan. Korea, 2015.9.15.
 11. 森臨太郎. 周産期・新生児保健医療平成 2 7 年度課題別研修コース. 独立行政法人大阪府立病院機構大阪府母子保健総合医療センター, 大阪, 2015.10.9.
 12. 森臨太郎. コクラン翻訳プロジェクトに関する相談. 平成 2 7 年度第 4 回医療技術評価部会公益財団法人日本医療機能評価機構, 東京, 2015.10.20.
 13. 森臨太郎. コクラン共同計画と系統的レビュー臨床研究と臨床研修への影響. ARTfulGP リサーチマインド醸成特別講演会, 岡山県, 2015.11.2.
 14. 森臨太郎, 大田えりか. 系統的レビュー/メタアナリシス入門講座. 国立精神・神経医療研究センター, 東京都, 2015.12.4
 15. 森臨太郎. 小児死亡に対する医学的原因究明の現状と小児 Ai モデル事業への期待. 平成 2 7 年度 Ai 学術シンポジウム, 東京都, 2015.12.23.
 16. 大田えりか. 系統的レビュー講義・演習. 日本赤十字社看護大学大学院, 東京都, 2015.1.5-12
 17. 大田えりか. 「PICOから検索, バイアスの評価の方法」「メタ解析の手法». 東京大学大学院母性看護助産学系統的レビュー講義・演習, 東京都, 2015.4.16-22
 18. 大田えりか. コクラン・コラボレーションとコクランライブラリー. OUG ライフサイエンス分科会定例会, 東京都, 2015.5.21.
 19. 大田えりか. 国際母子保健学, 東京大学大学院国際保健政策学, 東京都, 2015.5.26.
 20. 大田えりか. 国際学会で英語プレゼンのコツ. 日本助産学会研修・教育委員会主催ワークショップ, 兵庫県, 2015.7.4.
 21. 大田えりか. エビデンスを助産実績に活かそう Neonatal Care & Disaster Assistance. 第 11 回 ICM アジア太平洋地域会議・助産学術集会, 神奈川県, 2015.7.21.

22. 大田えりか. 「エビデンスを高める研究とコクランの活用方法」 「看護科学研究（文献レビュー）」. 大分県立看護科学大学「系統的レビュー講義・演習」, 大分県, 2015.7.25
23. 大田えりか. コーネル・WHO・コクラン系統的レビューサマーコース. コーネル大学大学院栄養学（非常勤講師）コーネル・WHO・コクラン系統的レビューサマーコース, 米国, 2015.7.28-8.5
24. 大田えりか. 診断精度のレビューワークショップ. 尼崎市民病院, 兵庫県, 2015.8.25.
25. 大田えりか. コクランレビューの具体的な方法論の学び方について指導および今後の教育活動について. 筑波大学 茨城県, 2015.9.9.
26. 大田えりか. コクランレビュープロトコルについて. 奈良県医師会, 奈良県, 2015.9.18.
27. 大田えりか. コクランレビュー・フルレビューについて. 第1回コクランレビューワークショップ, 奈良県立医科大学, 奈良県, 2015.11.13.
28. 大田えりか. コクランライブラリー利用者ワークショップ. 臨床研究ワークショップ大原記念倉敷中央医療機構倉敷中央病院, 岡山県, 2015.11.21.
29. 竹原健二. 産後うつは母親だけではない～産後うつ状態にある父子の実態とその関わり. 平成27年度母子保健セミナー, 東京, 2015.3.23.
30. 大田えりか. 国際学会で英語プレゼンのコツ, 日本助産学会研修・教育委員会主催ワークショップ, 兵庫県, 2015.7.4. 2015.
31. Chibueze EC. Introduction to the writing of systematic reviews and formulating the review question. Cochrane Review Workshop, Busan Korea, 2015.9.4.

[ワークショップ]

1. 政策科学研究部. コクランフルレビューワークショップ. 成育医療研究センター2015.2.5-6
2. 政策科学研究部. はじめてのコクラン読み方・使い方. 成育医療研究センター2015.2.24
3. 政策科学研究部. コクランレビュータイトル登録セミナー. 成育医療研究センター2015.6.18
4. 政策科学研究部. コクランレビュープロトコルワークショップ. 成育医療研究センター2015.9.3

【研究費実績】

[公的研究費]

1. 日本医療研究開発機構 成育疾患克服等総合研究事業
「母子保健領域における国際的動向を踏まえた予防方法や治療方法の開発及び情報発信等に関する研究」
森臨太郎（研究代表者）, 700万円
2. 国立成育医療研究センター 成育医療研究開発費

- 「系統的レビュー等の統合研究の活用に関する研究」
森臨太郎（研究代表者）， 900 万円
3. 日本医療研究開発機構 地球規模保健課題研究事業
「地球規模モニタリングフレームワークにおける各種指標の検証と科学的根拠にもとづく
指標決定プロセスの開発」
森臨太郎（研究代表者）， 485 万円
4. 日本医療研究開発機構 成育疾患克服等総合研究事業
「低出生体重児の発症機序及び長期予後の解明に関する研究」
森臨太郎（研究代表者）， 2,700 万円
5. 日本学術振興会 科学研究費助成事業 学術研究助成基金助成金(一部基金) 基盤研究
(B)(海外学術調査)
「モンゴル出生コホート研究：グローバルの母子保健課題解明に向けて」
森臨太郎（研究代表者） 585 万円， 大田えりか（研究分担者） 52 万円， 竹原健二（研究分担
者） 52 万円
6. 国立成育医療研究センター 成育医療研究開発費
「死産・周産期死亡および低出生体重児出生予防に関する包括的研究」
大田えりか（研究代表者）， 470 万円
7. 国立成育医療研究センター 成育医療研究開発費
「妊婦に対する効果的な早産予防を目的とする保健指導の開発に関する研究（研究代表者：
加藤佐知子）」
竹原健二（研究分担者）， 150 万円
8. 日本学術振興会 科学研究費助成事業 学術研究助成基金助成金 若手研究（B）
「父親に焦点を当てた両親学級の介入プログラムの開発と準ランダム化比較試験による評
価」
竹原健二（研究代表者）， 245 万円
9. 日本学術振興会 科学研究費助成事業 科学研究費補助金 基盤研究（B）
「カンボジアにおける「科学的根拠に基づく助産ケア」が母児に及ぼす影響の研究（研究代
表者：松井三明）」
竹原健二（研究分担者）、 30 万円

10. 日本学術振興会 科学研究費助成事業 学術研究助成基金助成金 若手 (B) 2860428
「我が国の低出生体重児出生予防に関する包括的研究」
大田えりか (研究代表者)、143 万円
11. 日本学術振興会 科学研究費助成事業 学術研究助成基金助成金 基盤研究 (C)
「インセンティブを取り入れた肥満予防の食環境プログラム開発に関する研究 (研究代表者: 澤田樹美)」
森臨太郎 (研究分担者)、13 万. 大田えりか (研究分担者)、13 万円
12. 厚生労働科学研究費補助金 地球規模保健課題解決推進のための行政施策に関する研究事業
「保健関連ポスト国連ミレニアム開発目標に関する現状と課題に関する研究」
大田えりか (研究代表者)、100 万円
13. 厚生労働科学研究費補助金 難治性疾患等政策研究事業
「自己炎症性疾患とその類縁疾患の診断基準、重症度分類、診断ガイドライン確立に関する研究 (研究代表者: 平家俊男)」
森臨太郎 (研究分担者)、160 万円
14. 日本医療研究開発機構 再生医療実用化研究事業
「低酸素性虚血性脳症に対する自己臍帯血幹細胞治療に関する研究 (研究代表者: 新宅治夫)」
森臨太郎 (研究分担者)、100 万円
15. 日本医療研究開発機構 成育疾患克服等総合研究事業
「新生児外科の検診モデル構築とトランジション可能な長期フォローアップ手帳の開発 (研究代表者: 木下義晶)」
森臨太郎 (研究分担者)、39 万円
16. 厚生労働科学研究費補助金 地域医療基盤開発推進研究事業
「社会的責任に応える医療の基盤となる診療ガイドラインの課題と可能性の研究 (研究代表者: 中山健夫)」
森臨太郎 (研究分担者)、45 万円
17. 国立成育医療研究センター 成育医療研究開発費

「成育医療および臨床研究の均てん化・向上に結び付く政策提言のための研究（研究代表者：石黒精）」

森臨太郎（研究分担者）， 20万円

18. 厚生労働科学研究費補助金 成育疾患克服等次世代育成基盤研究事業

「うつ病の妊産褥婦に対する医療・保健・福祉の連携・協働による支援体制（周産期 G-P ネット）構築の推進に関する研究（研究代表者：立花良之）」

森臨太郎（研究分担者）， 主任一括計上

その他（教育・広報など）

【教育活動】

1. 森臨太郎. 東京都福祉保健局小児の死因調査に関する検討部会委員.
2. 森臨太郎. 京都大学大学院医学研究科客員教授.
3. 森臨太郎. 日本小児科学会学術集会査読委員. 2015.
4. 森臨太郎. Health Technology Assessment International 2016 組織委員会委員
5. 森臨太郎. 東京大学大学院医学系研究科准教授
6. 森臨太郎. 日本小児科学会委員
7. 森臨太郎. 長崎大学大学院医師薬学総合研究科非常勤講師
8. 森臨太郎. 神奈川県こどもの死因究明研究会委員
9. 森臨太郎. 独立行政法人国際協力機構バングラデシュ母性保護サービス強化プロジェクト国内支援委員.
10. Mori R. Branch Director, Pregnancy and Childbirth Group, Chair of PCG Japan Satellite, Cochrane.
11. 大田えりか. 東京大学大学院医学系研究科非常勤講師.
12. 大田えりか. 大分県立看護科学大学非常勤講師.
13. 大田えりか. 国立大学法人東京医科歯科大学非常勤講師.
14. 大田えりか. 日本助産学会誌専任査読委員.
15. 大田えりか. 日本看護科学学会研究・学術情報委員会委員.

【情報発信】

1. 政策科学研究部. 「モンゴル国保健省と共同してモンゴル国ボルガン県で日本の母子健康手帳を試験的に導入し、妊婦健診の受診率や合併症の発見率が向上し、妊婦や新生児の健康に寄与することを科学的に証明」, プレスリリース. 2015.4.9
2. 森臨太郎. 小児科診療 UP-to-DATE テーマチャイルドデスレビューの必要性, ラジオ NIKKEI 東京, 2015.8.19.

【研究所運営への貢献】

1. 森臨太郎. 研究企画調整委員会 (委員長), 予算委員会, 施設整備・共同研究区域管理委員会, 図書委員会.
2. 大田えりか. 倫理予備審査委員会 社会医学研究部会 副委員長.

〔倫理委員会承認研究課題〕

1. 二回妊娠を経験した先天性下垂体機能低下症一例の検討, 受付番号: 909, 申請者: 川崎麻紀
2. 肥満児に対する社会的認知理論に基づく父親に重点を置いた家族介入プログラム (非対面版) の有効性評価: 無作為化比較試験, 受付番号: 997, 申請者: 田中久子
3. 「モンゴル出生コホート研究: グローバルの母子保健課題解明に向けて」ーボルガン県における出生・産後5年時の追跡調査 (2回目の追跡調査) ー, 受付番号: 1036, 申請者: 竹原健二

平成 28 年分

【平成 28 年研究業績】

【論文発表】

[原著論文 (欧文)]

1. Abe Sarah K, Balogun OO, Ota E, Takahashi K, *Mori R. Supplementation with multiple micronutrients for breastfeeding women for improving outcomes for the mother and baby. Cochrane Database of Systematic Reviews 2016; CD010647.
2. Amari S, Shahrook S, Ota E, *Mori R. Branched-chain amino acid supplementation for improving nutrition in term and preterm neonates. Cochrane Database of Systematic Reviews 2016; CD012273.
3. Amiya RM, Mlunde LB, *Ota E, Swa T, Oladapo OT, Mori R. Antenatal Corticosteroids for Reducing Adverse Maternal and Child Outcomes in Special Populations of Women at Risk of Imminent Preterm Birth: A Systematic Review and Meta-Analysis. Plos One 2016;11.
4. Balogun OO, da Silva Lopes K, *Ota E, Takemoto Y, Rumbold A, Takegata M, Mori R. Vitamin supplementation for preventing miscarriage. Cochrane Database Syst Review 2016;CD004073.
5. *Balogun OO, Kobayashi S, Anigo KM, Ota E, Asakura K, Sasaki S. Factors Influencing Exclusive Breastfeeding in Early Infancy: A Prospective Study in North Central Nigeria. Matern Child Health Journal 2016(first online 2015);20:363-75.
6. *Balogun OO, O'Sullivan EJ, McFadden A, Ota E, Gavine A, Garner CD, Renfrew MJ, MacGillivray S. Interventions for promoting the initiation of breastfeeding. The Cochrane Library 2016;CD001688.
7. *Bonet M, Ota E, Chibueze Chioma E, Oladapo Olufemi T. Routine antibiotic prophylaxis after normal vaginal birth for reducing maternal infectious morbidity. Cochrane Database of Systematic Reviews 2016;CD012137.
8. *Bonet M, Ota E, Chibueze Chioma E, Oladapo Olufemi T. Antibiotic prophylaxis for episiotomy repair following vaginal birth. Cochrane Database of Systematic Reviews 2016;CD012136.
9. Chibueze EC, Nabhan FA, Sato M, Usama N, Mori Y, Elfaramawy A, *Ota E. Spinal anaesthesia drugs for caesarean section. Cochrane Database of Systematic Reviews 2016.
10. *Chibueze EC, Parsons AJQ, da Silva Lopes K, Takemoto Y, Swa T, Nagata C, Horita N, Morisaki N, Balogun OO, Dagvadorj A, Ota E, Mori R, Oladapo OT. Accuracy of ultrasound scanning relative to reference tests for prenatal diagnosis of microcephaly in the context of Zika virus infection: a systematic review of diagnostic test accuracy. Bulletin of the World Health Organization 2016.
11. *Chibueze EC, Tirado V, da Silva Lopes K, Balogun OO, Takemoto Y, Swa T, Dagvadorj A, Nagata C, Morisaki N, Menendez C, Ota E, Mori R, Oladapo OT. Zika virus infection in pregnancy: a systematic review of disease course and complications. Bulletin of the World Health Organization 2016.
12. Cui S, *Tobe RG, Mo X, Liu X, Xu L, Li S. Cost-effectiveness analysis of rotavirus vaccination in

- China: Projected possibility of scale-up from the current domestic option. *BMC Infectious Diseases* 2016;16:677.
13. [da Silva Lopes K](#), [Ota E](#), [Tanigaki S](#), *[Mori R](#). Bed rest with and without hospitalisation in multiple pregnancy for improving outcomes. *Cochrane Database of Systematic Reviews* 2016;CD012031.
 14. *[Dagvadorj A](#), [Ota E](#), [Shahrook S](#), [Baljinnyam Olkhanud P](#), [Takehara K](#), [Hikita N](#), [Bavuusuren B](#), *[Mori R](#), [Nakayama T](#). Hospitalization risk factors for children's lower respiratory tract infection: A population-based, cross-sectional study in Mongolia. *Scientific reports* 2016;6:24615.
 15. *[Fujiwara T](#), [Kuriyama A](#), [Kato Y](#), [Fukuoka T](#), [Ota E](#). Perioperative local anaesthesia for reducing pain following septal surgery. *Cochrane Database of Systematic Reviews* 2016;CD012047.
 16. *[Gai R](#). Cost-Effectiveness Analysis Of Neonatal Screening Of Critical Congenital Heart Defects In China. *Value in Health* 2016;19:A17.
 17. [Ganchimeg T](#), *[Nagata C](#), [Vogel JP](#), [Morisaki N](#), [Pileggi-Castro C](#), [Ortiz-Panozo E](#), [Jayaratne K](#), [Mittal S](#), [Ota E](#), [Souza JP](#), [Mori R](#), [Maternal WHOMSo](#), [Newborn Health Research N](#). Optimal Timing of Delivery among Low-Risk Women with Prior Caesarean Section: A Secondary Analysis of the WHO Multicountry Survey on Maternal and Newborn Health. *PLoS One* 2016;11:e0149091.
 18. GBD 2015 DALYs and HALE Collaborators([Mori R](#), [T-GR](#), [Chibueze CE](#)). Global, regional, and national disability-adjusted life-years (DALYs) for 315 diseases and injuries and healthy life expectancy (HALE), 1990–2015: a systematic analysis for the Global Burden of Disease Study 2015. *The Lancet* 2016;388:1603-58.
 19. GBD 2015 DALYs and HALE Collaborators ([Mori R](#), [T-GR](#), [Chibueze CE](#)). Global, regional, national, and selected subnational levels of stillbirths, neonatal, infant, and under-5 mortality, 1980–2015: a systematic analysis for the Global Burden of Disease Study 2015. *The Lancet* 2016;388:1725-74.
 20. GBD 2015 HIV Collaborators([Mori R](#), [T-GR](#)). Estimates of global, regional, and national incidence, prevalence, and mortality of HIV, 1980-2015: the Global Burden of Disease Study 2015. *Lancet HIV* 2016;3:e361-87.
 21. *[Horita N](#), [Goto A](#), [Ota E](#), [Nakashima K](#), [Nagai K](#), [Kaneko T](#). Long-acting muscarinic antagonist plus long-acting beta agonist versus long-acting beta agonist plus inhaled corticosteroid for stable chronic obstructive pulmonary disease. *Cochrane Database of Systematic Reviews* 2016.
 22. *[Ishiguro A](#), [Ezinne CC](#), [Michihata N](#), [Nakadate H](#), [Manabe A](#), [Taki M](#), [Shima M](#). Pediatric thromboembolism: a national survey in Japan. *International Journal of Hematology* 2016:1-7.
 23. *[Ishiguro A](#), [Sasaki H](#), [Yahagi N](#), [Kure S](#), [Kato H](#), [Mori R](#). Needs Assessment for Collaborative Network in Pediatric Clinical Research and Education. *Pediatrics International* 2016.
 24. [Liao Y](#), [Ota E](#), [Cheng K](#), *[Mori R](#). Alternative prophylactic therapies (acupuncture and/or moxibustion) for reducing blood loss in the third stage of labour. *Cochrane Database of Systematic Reviews* 2016; CD012259.
 25. [Martin LJ](#), [Sjors G](#), [Reichman B](#), [Darlow BA](#), [Morisaki N](#), [Modi N](#), [Bassler D](#), [Mirea L](#), [Adams M](#),

- Kusuda S, Lui K, Feliciano LS, Hakansson S, Isayama T, Mori R, Vento M, Lee SK, *Shah PS. Country-Specific vs. Common Birthweight-for-Gestational Age References to Identify Small for Gestational Age Infants Born at 24-28 weeks: An International Study. *Paediatric and perinatal epidemiology* 2016.
26. Miyazaki C, Moreno RG, *Ota E, Swa T, Oladapo OT, Mori R. Tocolysis for inhibiting preterm birth in extremely preterm birth, multiple gestations and in growth-restricted fetuses: a systematic review and meta-analysis. *Reproductive health* 2016;13.
27. Mo X, *Tobe RG, Liu X, Mori R. Cost-Effectiveness and Health Benefits of Pediatric 23-Valent Pneumococcal Polysaccharide Vaccine, 7-Valent and Forecasting 13-Valent Pneumococcal Conjugate Vaccines in China. *The Pediatric infectious disease journal* 2016.
28. Moriichi A, *Kawaguchi A, Kobayashi Y, Yoneoka D, Ota E. The effectiveness and safety of various methods of post pyloric feeding. *Cochrane Library* 2016; CD012231.
29. Nakashima K, *Horita N, Nagai K, Manabe S, Murakami S, Ota E, Kaneko T. Progression-free survival, response rate, and disease control rate as predictors of overall survival in phase III randomized controlled trials evaluating the first-line chemotherapy advanced/locally-advanced/recurrent non-small cell lung carcinoma: A systematic review. *Journal of Thoracic Oncology* 2016.
30. Nomura O, Fukuda S, Ota E, Ono H, Ishiguro A, *Kobayashi T. Monoclonal antibody therapy for Kawasaki disease: a protocol for systematic reviews and meta-analysis. *Systematic reviews* 2016;5:1.
31. *Rahman MM, Abe SK, Rahman MS, Kanda M, Narita S, Bilano V, Ota E, Gilmour S, Shibuya K. Maternal anemia and risk of adverse birth and health outcomes in low-and middle-income countries: systematic review and meta-analysis. *The American journal of clinical nutrition* 2016;103:495-504.
32. *Sasaki H, Yonemoto N, Mori R, Nishida T, Kusuda S, Nakayama T. Use of the ICU Nurse-Physician Questionnaire (ICU N-P-Q): testing reliability and validity in neonatal intensive care units in Japan. *BMJ Open* 2016;6:e010105.
33. *Shah PS, Lui K, Sjors G, Mirea L, Reichman B, Adams M, Modi N, Darlow BA, Kusuda S, San Feliciano L, Yang J, Hakansson S, Mori R, Bassler D, Figueras-Aloy J, Lee SK. Neonatal Outcomes of Very Low Birth Weight and Very Preterm Neonates: An International Comparison. *The Journal of pediatrics* 2016.
34. Shoda T, Ishitsuka K, Kobayashi T, Ota E, Mori R. TNF α blockers for the disease in children. *The Cochrane Library* 2016; CD012448.
35. *Souza JP, Betran AP, Dumont A, de Mucio B, Gibbs Pickens CM, Deneux-Tharaux C, Ortiz-Panoso E, Sullivan E, Ota E, Togoobaatar G, Carroli G, Knight H, Zhang J, Cecatti JG, Vogel JP, Jayaratne K, Leal MC, Gissler M, Morisaki N, Lack N, Oladapo OT, Tuncalp O, Lumbiganon P, Mori R, Quintana S, Costa Passos AD, Marcolin AC, Zongo A, Blondel B, Hernandez B, Hogue CJ, Prunet C, Landman

- C, Ochir C, Cuesta C, Pileggi-Castro C, Walker D, Alves D, Abalos E, Moises E, Vieira EM, Duarte G, Perdona G, Gurol-Urganci I, Takahiko K, Moscovici L, Campodonico L, Oliveira-Ciabati L, Laopaiboon M, Danansuriya M, Nakamura-Pereira M, Costa ML, Torloni MR, Kramer MR, Borges P, Olkhanud PB, Perez-Cuevas R, Agampodi SB, Mittal S, Serruya S, Bataglia V, Li Z, Temmerman M, Gulmezoglu AM. A global reference for caesarean section rates (C-Model): a multicountry cross-sectional study. *BJOG : an international journal of obstetrics and gynaecology* 2016;123:427-36.
36. GBD 2015 SDG Collaborators(Mori R, T-GR). Measuring the health-related Sustainable Development Goals in 188 countries: a baseline analysis from the Global Burden of Disease Study 2015. *The Lancet* 2016;388:1813-50.
37. Suto M, Isogai E, Mizutani F, Kakee N, Misago C, *Takehara K. Prevalence and Factors Associated With Postpartum Depression in Fathers: A Regional, Longitudinal Study in Japan. *Research in nursing & health* 2016.
38. Suto M, Takehara K, Yamane Y, *Ota E. Effects of prenatal childbirth education for partners of pregnant women on paternal postnatal mental health: a systematic review and meta-analysis protocol. *Systematic reviews* 2016;5:21.
39. *Suzuki K, Kita Y, Kaga M, Takehara K, Misago C, Inagaki M. The Association between Children's Behavior and Parenting of Caregivers: A Longitudinal Study in Japan. *Frontiers in public health* 2016;4:17.
40. *Takehara K, Okamura M, Sugiura N, Suto M, Sasaki H, Mori R. Study protocol for a randomised controlled trial to test the effectiveness of providing information on childbirth and postnatal period to partners of pregnant women. *BMJ open* 2016;6:e011919.
41. Takemoto Y, *Ota E, Yoneoka D, Mori R, Takeda S. Japanese secular trends in birthweight and the prevalence of low birthweight infants during the last three decades: A population-based study. *Scientific reports* 2016;6.
42. *Tobe RG. Association Between Transient Newborn Hypoglycemia and Test Proficiency. *JAMA pediatrics* 2016;170:297.
43. *Tobe RG, Martin GR, Li FH, Mori R. Should postnatal oximetry screening be implemented nationwide in China? A cost-effectiveness analysis in three regions with different socioeconomic status. *International journal of cardiology* 2016;204:45-7.
44. GBD 2015 Disease and Injury Incidence and Prevalence Collaborators (T-GR, Chibueze CE). Global, Regional, and National Incidence, Prevalence, and Years Lived With Disability for 310 Acute and Chronic Diseases and Injuries, 1990-2015: A Systematic Analysis for the Global Burden of Disease Study 2015. *The Lancet* 2016;388:1545-602.
45. Yamamoto S, Hotta K, Ota E, Matsunaga A, *Mori R. Exercise-based cardiac rehabilitation for people with ventricular assist devices. *Cochrane Database of Systematic Reviews* 2016; CD012222.
46. *Yamamoto S, Yamaga T, Sakai Y, Ishida T, Nakasone S, Ohira M, Ota E, Mori R. Association

between physical performance and cardiovascular events in patients with coronary artery disease: protocol for a meta-analysis. Systematic reviews 2016;5:32.

47. Yamamoto S, Hotta K, Ota E, Mori R, Matsunaga A. Effects of resistance training on muscle strength, exercise capacity, and mobility in middle-aged and elderly patients with coronary artery disease: a meta-analysis. Journal of cardiology 2016; 68(2):125-34.
48. Yoshioka-Maeda K, *Ota E, Ganchimeg T, Kuroda M, Mori R. Caesarean section by maternal age group among singleton deliveries and primiparous Japanese women: a secondary analysis of the WHO Global Survey on Maternal and Perinatal Health. BMC pregnancy and childbirth 2016;16:39.
49. Zhao D, Tobe RG, Cui M, He J, *Wu B. Cost-effectiveness of a 23-valent pneumococcal polysaccharide vaccine immunization programme for the elderly in Shanghai, China. Vaccine 2016.
50. *Tobe RG, Martin GR, Li FH, Mori R. Should postnatal oximetry screening be implemented nationwide in China? A cost-effectiveness analysis in three regions with different socioeconomic status. International journal of cardiology 2016;204:45-7.
51. Betran AP, Torloni MR, Zhang JJ, Gulmezoglu AM, WHO Working Group on Caesarean Section(Mori R). WHO Statement on Caesarean Section Rates. BJOG : an international journal of obstetrics and gynaecology 2016;123:667-70.
52. Global Burden of Disease Cancer Collaboration(Chibueze CE). Global, Regional, and National Cancer Incidence, Mortality, Years of Life Lost, Years Lived With Disability, and Disability-Adjusted Life-years for 32 Cancer Groups, 1990 to 2015: A Systematic Analysis for the Global Burden of Disease Study. JAMA oncology 2016.

[原著論文 (和文)]

1. 加藤佐知子, 竹原健二, 新田知恵子, 太田えりか. 切迫流早産妊婦における「衣服による体幹への締め付けを回避する保健指導」が早産予防にもたらす効果の検討. 日本助産学会誌 2016;30:110-9.

[総説]

1. 森臨太郎, 森享子. 出産にあたってのルーチンと分娩の進行 (助産雑誌 2016;70:392-6.
2. 森臨太郎, 森享子. 親子関係と子育て支援. 助産雑誌 2016;70:666-71.
3. 森臨太郎, 森享子. 産後の栄養と母乳哺育 (助産雑誌 2016;70:474-9.
4. 森臨太郎, 森享子. 出産にあたってのルーチンと分娩の進行 (助産雑誌 2016;70:304-9.
5. 森臨太郎, 森享子. 多胎妊娠について. 助産雑誌 2016;70:234-8.
6. 森臨太郎, 森享子. 発達障害への介入. 助産雑誌 2016;70:764-70.
7. 森臨太郎, 森享子. 産後の栄養と母乳哺育 (助産雑誌 2016;70:580-5.
8. 森臨太郎, 森享子. 骨盤位について. 助産雑誌 2016;70:144-50.

9. 森臨太郎, 森享子. 早産にならないようにするには. 助産雑誌 2016;70:60-6.
10. 森臨太郎, 森享子. 子どもの皮膚トラブル. 助産雑誌 2016;70:862-7.
11. 森臨太郎, 森享子. 子どもの病気や事故予防について. 助産雑誌 2016;70:964-9.
12. 森臨太郎, 森享子. 科学的根拠と上手に付き合っていくには. 助産雑誌 2016;70:1048-50.
13. 竹原健二. 介入研究の実施体制のマネジメントー 計画立案時のロジスティクス構築の重要性. 看護研究 2016;49:375-84.
14. 蓋若琰, 森臨太郎. 診療ガイドラインにおける医療経済評価の活用 (特集 医療経済学のススム)--(医療における経済学の利用). 治療 2016;98:537-44.

[学会発表]

[一般演題]

1. Tobe RG(蓋若琰). ISPOR 7th Asia Pacific Conference, The influence of HTA on child healthcare and patient's access to advanced therapies in Japan, Singapore, 2016.9.3-6.
2. Tobe RG. Cost-effectiveness analysis of neonatal screening of critical congenital heart defects in China. ISPOR 21st Annual International Meeting, Washington DC, USA. 2016.5.21-22.
3. 田中久子, 太田えりか, 高橋美恵子, 鴨志田純子, 澤田樹美, 井上永介, 蕨迫栄美子, 津田正彦, 原田正平. 世田谷区における肥満児に対する父親に重点を置いた家族介入プログラムの有効性評価, 日本外来小児科学会第16回 園・学校保健勉強会, 東京, 2016.3.20
4. 田中久子. 第2回疫学若手の会合宿, 滋賀, 2016.10.1-10.2
5. 田中久子, 澤田樹美, 原田正平. 世田谷区の肥満児に対する父子介入プログラムの有効性評価 (経過報告) (ポスター発表), 第75回 日本公衆衛生学会総会, 大阪, 2016.10.26
6. Dagvadorj A. The 6th Congress of the European Academy of Paediatric Societies, October 21-25, 2016, Geneva, Switzerland. "Maternal and child health handbook influence on child cognitive development in Mongolia"
7. 蓋若琰. HTAi2016Annual Meetingにて発表及びパネルの co-chair, 東京, 2016.5.23
8. Tobe RG. ECONOMIC EVALUATION OF POSTNATAL OXIMETRY SCREENING FOR CONGENITAL HEART DEFECTS IN CHINA. Making Difficult Clinical and Policy Decisions: The Example of Ageing and End of Life Care in Asia-Pacific; 2016: Social for medical Decision Making.
9. Tanigaki S, Sasaki H, Mitsui M, Mori R, Ishiguro A, Sago H. Survey on medical and research education to develop a training system in obstetrics. Congress of the Federation of Asia and Oceania Perinatal Societies in Taipei, Taiwan Taipei, 2016.12.1-4
10. Tobe RG, Martin GR, Li FH, Moriichi A, Ono H, Mori R. Cost-effectiveness analysis of neonatal screening of critical congenital heart defects in China. The 2nd Biennial Asia-Pacific Conference of Society for Medical Decision Making. Hong Kong.2016.
11. Sawada K, Wada K, Shahrook S, Ota E, Takemi Y, Mori R. Financial incentive policies at workplace

cafeterias for preventing obesity: a systematic review. The 24th Cochrane Colloquium (Seoul), 25 Oct. 2016

12. 山本周平、堀田一樹、大田えりか、松永篤彦、森臨太郎：冠動脈疾患患者に対するレジスタンストレーニングの効果：メタアナリシスによる検討。第239回日本循環器学会関東甲信越地方会，東京（第239回日本循環器学会関東甲信越地方会プログラム集 P5），2016.2.6.
13. Yamamoto S, Yamaga T, Sakai Y, Ishida T, Nakasone M, Ohira M, Yajima F, Yamazaki S, Higuchi S, Ota E, Mori R, Ikeda U：Association between 6 minutes walking distance and mortality in patients with coronary artery disease and heart failure: a meta-analysis of cohort studies. ESC 2016, Roma, Italy 2016.8.27-8.31

[講演]

1. 森臨太郎。第10回母子手帳国際会議・招待講演・シンポジスト，東京都，2016.11.23-11.25.
2. 森臨太郎。フォーカスグループインタビュー。公益社団法人日本看護科学学会 研究・学術情報委員会，東京都，2016.11.8.
3. 森臨太郎。「外国人観光客 2,000 万人時代を迎えて」。第7回国際観光医療学会学術集会，千葉，2016.10.8.
4. 森臨太郎。アフリカ地域周産期・新生児保健医療 平成28年度課題別研修コース。地方独立行政法人 大阪府立病院機構 大阪府立母子保健総合医療センター，大阪，2016.10.6.
5. 森臨太郎。JMCA セミナー「システマティックレビューの進め方」。特定非営利活動法人日本メディカルライター協会，東京，2016.9.20.
6. 森臨太郎。コクラン共同研究と系統的レビュー。京都府立医科大学大学院大学院特別講義，京都，2016.10.7.
7. 森臨太郎。「持続可能な医療と診療の質：医療者ができること」独立行政法人神奈川県立病院機構神奈川県立こども医療センター医師の会研究会。独立行政法人神奈川県立病院機構神奈川県立こども医療センター医師の会，神奈川，2016.9.7.
8. 森臨太郎。臨床看護研究におけるコクラン系統的レビューの読み方・活用術。一般社団法人日本看護研究学会第42回学術集会。茨城，2016.8.20.
9. 森臨太郎。「周産期医療政策の今後の展開とその対応について」沖縄周産期ネットワーク協議会・特別講演会。沖縄周産期ネットワーク協議会（那覇市医師会），沖縄，2016.7.1.
10. 森臨太郎。コクランレビューと根拠に基づく医療の推進。第12回婦人科がん会議，長野，2016.6.27.
11. 森臨太郎。RIHDS 養成講座「中級」 系統的レビューとメタ解析・エビデンスのつくり方としてシステマティックレビューとメタアナリシスの入門編。一般社団法人ヘルスケア・データサイエンス研究所，東京，2016.6.24.
12. 森臨太郎。持続可能な開発・ふたたび 保健・母子分野にとっての意義。第128回 国際

母子カンファレンス, 東京, 2016.6.8.

13. 森臨太郎. 「Human papillomavirus vaccines:Global versus Japanese situations」, Symposium17 Benefit and Risk of HPV Vaccine. 第19回国際細胞学会議, 神奈川, 2016.5.31.
14. 森臨太郎. WELCOME 研修医の会. 公益社団法人 岡山県医師会, 岡山, 2016.4.7.
15. 竹原健二. 父親のメンタルヘルス. 助産師教育指導講習会 公益財団法人東京都助産師会, 東京, 2016.11.11.
16. 竹原健二. 「産後の父親の支援」父親をとりまく社会の実態や近年の動向、研究結果から、父親への支援・アプローチについてまで. 平成28年養育困難事例検討会 江戸川区深川南部保健相談所, 東京, 2016.11.29.
17. 竹原健二. メンタルヘルス不調の妊産婦に対する地域連携の体制構築について、パートナーの出産・育児への関わり、メンタルヘルスなどについて. 妊娠・出産包括支援委員養成研修会, 静岡, 2016.12.1.
18. 蓋若琰. 第42回キャノンHTA研究会, HTA in evidence-based policy making in developing countries: an overview of global health and examples in maternal and child health care. 東京, 2016.7.20.
19. 蓋若琰. JTTA 日本遠隔医療国際ワークショップ, バングラデシュの母子保健におけるモバイルヘルスと母子手帳の効果の介入研究, 2016.6.26.

[ワークショップ]

1. 政策科学研究部. コクランフルレビューワークショップ, 成育医療研究センター, 2016.2.4-
2. 政策科学研究部. コクランレビュータイトル登録セミナー, 聖路加国際大学, 2016.6.2
3. 政策科学研究部. 費用対効果ワークショップ, Minds, 2016.8.25
4. 政策科学研究部. コクランレビュープロトコールワークショップ, 成育医療研究センター, 2016.9.9
5. 政策科学研究部. GRADE-CERQual (質的研究) ワークショップ, 成育医療研究センター, 2016.10.28-29

【研究費実績】

[公的研究費]

1. 日本医療研究開発機構 成育疾患克服等総合研究事業
「母子保健領域における国際的動向を踏まえた予防方法や治療方法の開発及び情報発信等に関する研究」
森臨太郎 (研究代表者), 700万円
2. 国立成育医療研究センター 成育医療研究開発費
「系統的レビュー等の統合研究の活用に関する研究」

- 森臨太郎（研究代表者），360万円
3. 日本医療研究開発機構 地球規模保健課題研究事業
「地球規模モニタリングフレームワークにおける各種指標の検証と科学的根拠にもとづく指標決定プロセスの開発」
森臨太郎（研究代表者），436万円
 4. 日本医療研究開発機構 成育疾患克服等総合研究事業
「低出生体重児の発症機序及び長期予後の解明に関する研究」
森臨太郎（研究代表者），1,900万円
 5. 厚生労働科学研究費補助金 臨床研究等ICT基盤構築研究事業
「周産期関連の医療データベースのリンケージの研究」
森臨太郎（研究代表者），1,040万円
 6. 厚生労働科学研究費補助金 地域医療基盤開発推進研究事業
「地域における小児保健・医療提供体制に関する研究」
森臨太郎（研究代表者），637万円
 7. 日本学術振興会 科学研究費助成事業 学術研究助成基金助成金(一部基金) 基盤研究(B)(海外学術調査)
「モンゴル出生コホート研究：グローバルの母子保健課題解明に向けて」
森臨太郎（研究代表者）383.5万円、竹原健二（研究分担者）32.5万円
 8. 国立成育医療研究センター 成育医療研究開発費
「死産・周産期死亡および低出生体重児出生予防に関する包括的研究」
佐々木八十子（研究代表者），188万円
 9. 日本学術振興会 科学研究費助成事業 学術研究助成基金助成金 若手研究(B)
「父親に焦点を当てた両親学級の介入プログラムの開発と準ランダム化比較試験による評価」
竹原健二（研究代表者）、57万円
 10. 日本学術振興会 科学研究費助成事業 科学研究費補助金 基盤研究(B)
「カンボジアにおける「科学的根拠に基づく助産ケア」が母児に及ぼす影響の研究（研究代表者：松井三明）」

竹原健二（研究分担者）、25 万円

11. 日本学術振興会 科学研究費助成事業 学術研究助成基金助成金 基盤研究（C）
「インセンティブを取り入れた肥満予防の食環境プログラム開発に関する研究（研究代表者：澤田樹美）」
森臨太郎（研究分担者）、65 万
12. 厚生労働科学研究費補助金 難治性疾患等政策研究事業
「自己炎症性疾患とその類縁疾患の診断基準、重症度分類、診断ガイドライン確立に関する研究（研究代表者：平家俊男）」
森臨太郎（研究分担者）、70 万円
13. 日本学術振興会 科学研究費助成事業 科学研究費補助金 若手研究（A）
「バングラデシュ農村の母子保健に対するモバイルヘルスプログラム効果の地域介入研究」
蓋若琰（研究代表者）、600 万円
14. 日本医療研究開発機構 再生医療実用化研究事業
「低酸素性虚血性脳症に対する自己臍帯血幹細胞治療に関する研究（研究代表者：新宅治夫）」
森臨太郎（研究分担者）、60 万円
15. 日本医療研究開発機構 成育疾患克服等総合研究事業
「脳性麻痺に対する臍帯由来間葉系細胞治療に関する研究（研究代表者：新宅治夫）」
森臨太郎（研究分担者）、110 万円
16. 厚生労働行政推進調査事業費 地域医療基盤開発推進研究事業
「診療ガイドラインの担う新たな役割とその展望に関する研究（研究代表者：中山健夫）」
森臨太郎（研究分担者）、30 万円
17. 国立がん研究センター研究開発費
「国立高度専門医療研究センター独自の政策調査機能に関する研究」
森臨太郎（分担研究者）、50 万円
18. 厚生労働科学研究費補助金 成育疾患等克服次世代育成基盤研究事業
「母子の健康改善のための母子保健情報利用活用に関する研究（研究代表者：山縣然太郎）」
森臨太郎（研究分担者）、40 万円

19. 日本学術振興会 科学研究費助成事業 学術研究助成基金助成金 若手研究 (B)
「A Systematic review on interventions to improve mental health of displaced and refugee children」
宮崎セリーヌ (研究代表者), 117 万円
20. 日本学術振興会 科学研究費助成事業 学術研究助成基金助成金 若手研究 (B)
「The association between maternal nutritional status and gestational weight gain on glucose tolerance and birth outcomes」
バログンオルクミ (研究代表者), 221 万円
21. 日本学術振興会 科学研究費助成事業 学術研究助成基金助成金 若手研究 (B)
「混合研究方法による子どもの可能性を最大化にする新たな母子健康手帳の開発」
ダグワドルジ アマルジャルガル (研究代表者), 169 万円
22. 日本学術振興会 科学研究費助成事業 学術研究助成基金助成金 若手研究 (B)
「肥満に対する生活習慣改善のための父子介入プログラムの開発と検証」
田中久子 (研究代表者), 78 万円

[その他研究費]

23. WHO 受託研究費
「To conduct systematic reviews of relevant studies on the following guideline questions on Zika」
森臨太郎, 92 万円
24. コクラン本部よりの受託研究費
「Japanese language, translation and dissemination services」
森臨太郎, 94 万円
25. 名古屋女子大学よりの受託研究費
「インセンティブを取り入れた肥満予防の食環境プログラム開発に関する研究」
森臨太郎, 20 万円
26. International Travel Bursary for the 16th ICI conference in Melbourne Australia from the Japanese Society of Immunology via Novo Nordisk, 2016.
Chibueze Chioma Ezinne, 10 万円

その他（教育・広報など）

[教育活動]

1. 森臨太郎. 横浜市立大学大学院医学系研究科 臨床研究演習
2. 森臨太郎. 東京大学大学院医学系研究科 准教授
3. 森臨太郎. 京都大学大学院医学系研究科 EBM・診療ガイドライン持論 客員教授
4. 蓋若琰. 中国武漢大学 研究デザインおよびユニバーサルヘルスカバレッジと医療技術評価
5. 蓋若琰. 中国武漢大学 グローバルヘルスセンター客員教授
6. 蓋若琰. ISPOR Asia Pacific Consortium Advisory Committee 委員
7. 蓋若琰. 受療者医療保険学術連合会学術委員
8. 蓋若琰. Global Health についての講義、中国 武漢大学 2016.12.6-12.
9. 蓋若琰. High-level policy dialogue on Digital Health for "Healthy Lives and Wellbeing for All(SDG3)", ITU, Geneva, 2016.5.23-24.
10. 蓋若琰. 第 69 回世界保健大会 (World Health Assembly), Geneva, 2016.5.25-26.
11. 竹原健二. 北海道大学大学院保健学科 助産対人関係論, 10 月 14 日, 2016
12. 竹原健二. 北海道大学医学部 母性看護学援助論 I, 10 月 14 日, 2016
13. 竹原健二. 玉川大学農学部 非常勤講師 (公衆衛生学)
14. 政策科学研究部. 「定性調査・質的研究のソフトウェア《NV I V O》の利用に関するセミナー」. 国立成育医療研究センター, 2016.9.6
15. 政策科学研究部. 「医学文献検索とその後の管理に関するセミナー」. 国立成育医療研究センター, 2016.7.21
16. 森臨太郎. 「コクラン共同計画と系統的レビュー」横浜市立大学医学研究科「臨床研究演習」. 横浜市立大学大学院 医学系研究科, 神奈川, 2016.10.4.
17. 政策科学研究部. 「グローバルの母子医療分野における医療機器イノベーション・マッチング～Medical Device Innovations Matching for Maternal and Newborn Health～」. 国立成育医療研究センター, 2016.2.22-23

[社会活動・貢献]

1. 森臨太郎. 特定非営利活動法人 日本コクランセンター 理事長
2. 森臨太郎. 公益財団法人日本医療機能評価機構 EBM 医療情報事業運営委員
3. 森臨太郎. 長崎大学熱帯医学研究所 熱帯医学研究拠点運営協議会委員
4. 森臨太郎. 日本小児科学会 小児医療提供体制委員会委員
5. 蓋若琰. 受療者医療保険学術連合会 学術委員会委員
6. 蓋若琰. Health Technology Assessment international (HTAi) Tokyo, 2016 組織委員会委員
7. 竹原健二. JICA タジキスタン国母子手帳調査研究のためのデザイン調査団員
8. 竹原健二. JICA アンゴラ国母子健康手帳を通じた周産期及び小児保健サービスの向上プ

プロジェクトインパクト評価調査団員

[情報発信]

1. 森臨太郎. 母子手帳はなぜ親子を強くするのか？モンゴルでも活用が進む、WEDGE INFINITY (WEB) 2016年8月18日掲載
2. 森臨太郎. 「今より地味で不自由になる」, 朝日新聞 「Globe No 183」 2016.7.30 掲載.
3. 森臨太郎. 「低出生体重児が増えている」, 毎日新聞 「Anetis 夏」 2016 掲載.
4. 竹原健二. 産後うつ傾向、夫にも2割 子育てと仕事、両立が重圧？. 毎日新聞, 2016年1月6日掲載.
5. 竹原健二. 約2割のパパに産後うつリスクが！産後のピンチはどう乗り切る？. Web ニュースサイト Suzie, 2016年1月30日掲載.
6. 竹原健二. パパも「産後うつ」、2割近く経験 仕事と家庭の両立悩む. 日本経済新聞, 2016年3月5日掲載.
7. 竹原健二. 聞いてください！“イクメン”はつらいのよ. NHK 総合テレビあさイチ, 2016年3月30日放送.
8. 竹原健二. 責任、不安...男性も産後うつ. 読売新聞, 2016年4月27日掲載.
9. 竹原健二. 夫も危ない産後うつ. AERA, 2016年6月20日号
10. 竹原健二. 「イクメン」ブームの陰で増える父親の「パタニティブルー」. 週刊朝日, 2016年7月1日号
11. 竹原健二. 広がる”イクメンブルー”. NHK 総合テレビおはよう日本, 2016年11月4日放送.
12. 竹原健二. パパの育児ストレス. 朝日新聞, 2016年11月24日掲載.

[研究所運営への貢献]

1. 森臨太郎. 研究企画調整委員会（委員長）、予算委員会、施設整備・共同研究区域管理委員会、実験動物委員会、図書委員会.
2. 蓋若琰. ビデオ教育委員会.
3. 竹原健二. 防災対策委員.

[倫理委員会承認研究課題]

1. 妊婦のパートナーを対象とした出産・育児期に関する情報提供の有効性に関するランダム化比較試験, 受付番号：1071, 申請者：竹原健二
2. 世田谷区における小児生活習慣病予防検診受診に関するデータ解析, 受付番号：1179, 申請者：田中久子
3. 難民の子どもたちのメンタルヘルスを向上させるための介入に関する系統的レビュー~A systematic review on interventions to improve mental health of displaced and refugee children~, 受

付番号：1182, 申請者：宮崎セリーヌ

4. 妊娠前の体格や妊娠中の体重増加が妊娠糖尿病および妊娠・分娩時のアウトカムに及ぼす影響に関する前向きコホート研究, 受付番号：1216, 申請者：Olukunmi Balogun (オルクミン バログン)
5. バングラデシュ農村の母子保健に対するモバイルヘルスプログラム効果の地域介入研究, 受付番号：1388, 申請者：蓋若琰

